

特別支援教育や教育的ニーズに応じた指導・支援などについて、知りたいことや困ったことがあった場合、先生方はどのような媒体から情報収集していらっしゃいますか。生成 AI や SNS を活用されている場面もあるかと思います。今回は、巡回相談や研修等で情報提供すると、ご存じないとおっしゃる方が多い各関係機関のホームページ上の資料やツールについてご紹介します。指導・支援の参考になれば幸いです。

分野	機関・発行元	資料・ツール名	主な内容・活用目的
教育	独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 (NISE) 	・特別支援教育リーフ ・NISE学びラボ ・インクルDB 等	・様々なニーズのある子供の学びや生活の充実を図るヒントとなる取組や情報 ・インターネットによる講義配信 ・合理的配慮や基礎的環境整備の事例紹介
	文部科学省 	障害のある子供の教育支援の手引 (令和3年)	・障がいのある子供の教育的ニーズを整理するための考え方や観点 ・就学先決定等の仕組み等
	熊本県教育委員会ホームページ (特別支援教育)	通常の学級における包摂力のある好事例集 (令和8年3月)	すべての子供が安心して学ぶための対応や支援のヒントとして、キーワードやカテゴリーごとに事例が紹介
福祉・療育	熊本県ホームページ (球磨地域振興局→保健福祉環境部) 球磨管内各市町村ホームページ	人吉・球磨における療育について 人吉・球磨地域ふくしマップ	・人吉・球磨における療育についての支援体制、相談窓口等 ・人吉・球磨地域の障害福祉サービス事業所や関係機関についての情報 (年1回更新)
医療	熊本県発達障がい医療センターホームページ	発達障がい受診ハンドブック 等	熊本県内の発達障がいの医療機関の一覧

指導・支援のヒントやアイデアを生み出すためには、特別支援教育に関する情報や地域の現状について正しく知ることが「はじめのいっぽ」になりますね。



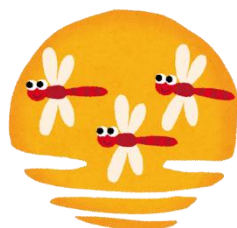
障害とはどこにあるもの？ 障害の社会モデルとは



身体の動かしにくさがあり、車椅子に乗っている人は「障害者」なのでしょうか。日常生活を送る際、建物に階段しかない（または段差がある）場合に「障害がある状態」になります。つまり、「障害」は社会がつくり出している側面があるといえます。現在では、「障害」は個人の心身機能の障害だけでなく、社会的障壁との相互作用によって生ずるとされています。

一人一人の障害理解が進み、社会が変わることで、「障害」が「障害」ではなくなるはずで。このような考え方を「障害の社会モデル」と言います（一方、「障害」を個人の心身機能の障害によるものとする考え方を「医学モデル（個人モデル）」と言います）。

社会モデルの視点から日々の学習活動や学校・園のルールやシステムを見直す発想の転換をすれば、見えてくること、変えられることが見つかるかもしれませんね。



〈お問い合わせ先〉

熊本県立球磨支援学校

教頭：廣野

特別支援教育コーディネーター：高島

TEL：0966-42-3792

FAX：0966-42-6938

E-mail: kuma-s@pref.kumamoto.lg.jp

HP アドレス: <http://sh.higo.ed.jp/kuma-s/>



球磨支援学校の HP
QR コード